



# むつみ荘だより



2025年11月 第331号



医療法人社団 なごみ会 老人保健施設 あさぎりむつみ荘  
〒673-0852 明石市朝霧台 1120-4 TEL (078)911-0623  
なごみ会ホームページ <http://www.nagomikai.or.jp/>



日本の**夏** 42年で**3週間長く**

「春」と「秋」消滅し

温暖化が続けば **長い夏と冬の二季化**を懸念

医療法人 なごみ会  
理事長 横山 光昭

日本の「夏」が、1982年～2023年迄の42年間で約3週間長くなっていたことが、三重大大学院の立花義裕教授（気象学）の研究チームによるデータ解析で分かった。「冬」の期間はほぼ変わらない一方で、春秋が短くなって夏の期間は年々日数が増加傾向にあり、四季が薄れ「二季化」する傾向がみられる。「**地球温暖化により、日本近海の海面水温が異常に上昇していることが原因**」とみています。

気象庁は夏を6～8月としており、気温による定義はしていない。立花教授らは、北海道から九州までの海洋を含む範囲を約200区画に分け、気象庁の観測データに基づき年間最高気温42年分の平均値を割り出した。最低気温も同様に算出して、最高値から4分の1の気温を区画ごとの「夏の基準」とした。例えば最高値が20度で最低値が0度であれば、基準値は15度になる。

更に42年分の気温を1年ごとに分析。1日だけ極端に低下した日などの影響が大きくなりすぎないように、毎日の気温は前後2日ずつを含めた5日間の平均値で並べた。1年間で夏の基準を初めて超えた日を夏の開始日、最後に超えた日を終了日とし、その間の日数を夏の期間と定義した。